

令和4年度 第2回駒ヶ根市地域公共交通協議会 会議録

【日 時】令和5年1月30日（月）午後1時～

【場 所】駒ヶ根市役所 本庁舎2階 大会議室

【出席委員】16名（欠席：伊東俊弘委員・玉川博之委員・竹村清明委員・西尾芳信委員・
宮崎洋一郎委員・玉巻史成委員）

1 開 会

2 委嘱状交付

委員3名へ委嘱（役員交代による残任期間の委嘱）

3 会長あいさつ

- 今年度は公共交通計画の2年目として、山麓周遊EVバス実証実験や、こまタク予約配車システムの実証実験など、新たなチャレンジをすることが出来た。今後につながる貴重なデータを得られた。
- いよいよ本格的なウィズコロナ時代が到来する。引き続き委員の皆様には幅広い視野からご意見を頂戴し、目標達成へ向け取り組んでいきたい。

4 協議事項

(1) 令和4年度主要事業の報告

① 山麓周遊実証実験（EVバス実証実験）

資料1

② こまタク運行予約システム実証

資料2-1

資料2-2

資料2-3

下平委員より質問

- ・ 山麓周遊交通の実証実験について、本格運行となれば赤字は避けられず公費投入が必要になると思うが、観光客のためだけとなると住民理解が得られないのでは。住民の利便性はどう結び付けるかが重要と考えるがいかがか。

⇒（事務局より回答）

- ・ 公共交通計画より、こまちゃんバスの休止に至った経過から、現在は市街地についてはデマンド交通、観光エリアについては周遊交通と整理している。今後の市内の主要施設の移転等により、公共交通全体の在り方が変わる可能性はあり、状況に応じ協議会にて検討、協議をしていきたい。

村瀬委員より質問

- ・ 山麓周遊交通について、市街地との接続は考えないのか。
⇒ (事務局より回答)
- ・ 既存のロープウェイ線を活かし、接続を図りながら利便性を高めていきたい。
⇒ (村瀬委員より)
- ・ 市民の地元観光地への関心を高める必要もあると考えるがいかがか。
⇒ (事務局より回答)
- ・ 観光を市外の方角へと考える必要はないと考える。ロープウェイ線の縦軸に対し、横軸をうまく展開し、市民も市外の方も使いやすい連結を構築したい。
⇒ (村瀬委員より)
- ・ 既存の路線バスの車両をEV化できるような行政の支援も必要と考えるがいかがか。
⇒ (事務局より回答)
- ・ 利便性向上やお客様のニーズ拡大に応じるため、支援を求める事業者からの声が大きくなれば協議会において対応協議をしたい。
⇒ (村瀬委員より)
- ・ 事業者が単独採算で運行する交通は貴重なものとして認識されるべきと考える。
⇒ (事務局より回答)
- ・ ご発言のとおりと考える。ロープウェイ線のみならずスイミングスクールのバスなど、公共交通計画でも貴重な交通資源と捉え記載をしているところ。

(その他に質問なし) ⇒ 全員挙手 (承認)

(2) 令和5年度主要事業の方針

① 山麓周遊交通

資料3

(質問等なし) ⇒ 全員挙手 (承認)

② 上半期デマンド交通運行业務の委託業者 (案)

資料4

(質疑等なし) ⇒ 全員挙手 (承認)

5 その他

(1) 委員の追加について

<事務局>

- ・ 新年度の山麓周遊交通の実証実験に伴い、運行業務委託契約先としてこまくさ観光(株)の協議会への委員としての参画をお示しする。当協議会規約第4条の委員資格となる乗合運送業の取得予定である。

<こまくさ観光(株)>

- ・ この度、事業再構築補助の申請を行い採択を受けた。既存車両のオープントップ化と周遊バス事業を計画していたところ。協議会へ参画し、一緒になって事業を遂行していきたい。ぜひご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

(2) 情報共有

<北陸信越運輸局長野運輸支局>

- ・ 山麓周遊バスに乗車の際、乗客数が結構いたと感じた。来年度以降の方針が示されたが、実証として21条運行としてデータ収集をしながら内容のブラッシュアップをしていけばよいと考える。
- ・ EVバスの購入補助金は来年度以降も継続決定。

<長野県交通政策課>

- ・ 県としても公共交通分野の脱カーボンは取り組む必要があると考えている。駒ヶ根市の取組みを参考にしたい。

(3) その他

下平委員より質問

- ・ 昭和伊南総合病院の移転について、協議会として対応の考えがあるか。

⇒ (事務局より)

- ・ 現段階ではオープンになっている情報までしかない。まだ検討段階にはないと捉えているが、将来的には間違いなく重要課題であり協議会で対応の協議は必要になる。また、伊南広域での対応も視野に入る。

6 閉会